

を表わし、右手を上げて見せる。一軍配が上
がった。

渴^カえる 五指の指頭を上にしし掌を内側に
向けた手で、咽喉の上を軽く叩たく。咽喉が
からからに乾き切ったのを訴える表現。

がっかり 五指を彎曲した両手の指頭を左
右夫々の胸に軽くつけてから、両手を下にす
り落す。がっかりとした表情で肩を落す身振
を伴う。

合併 「合わせる」手まねをして更に両手
五指を開いて掌をびったりと合わせる。

家庭 家―肉身―人々。家を表わした両手
のうち左手をそのままにして置いて、右手で
「肉身」を即ち、人差指と親指で頬を軽くつ
まみ或は人差指だけでその指頭で頬を撫で降
す。次に「人々」を左手(家)の下に表わ
す。家の中の肉親の人々。

下等 「卑しい」と同じ手まね。

叶う 「あてはまる」と同じ手まね。「適
当」「適度」の手まねにもなる。

悲しい 人差指と親指の指頭を合わせたの
を眼の下から頬を伝わらせて降して行く。涙
が頬を流れ落ちる様。

必ず (イ)「決っている」と同じ手まねを強
く表わす。(ロ)「約束」の手まねを強く指に
を入れて表わす。

蟹^{カニ} 掌を下に向けた両手を互の親指をまげ
てつなぎ、共に他の四指を曲げ伸ばししなが
ら、横に移動させる。蟹横進いの表現。

金(金銭) 人差指と親指で丸い輪をつくる
(他の四指は伸ばしたまま)

鐘 (イ) 吊鐘、檀木から垂れ下った網を両
手で持って鐘をつく身振り。(ロ) 洋式の鐘。

鉦 網を引いて鳴らせる身振り。(イ) 掌を
右側に向け、指頭を前方にさした五指をC形
に彎曲させたのを鉦とみなして、右手の人差

指でそれを叩たく真似。

金持 (富豪) 「金」を表わした手をそのま
ま肩の辺りまで上げ(金が多く積まれてあ
る)。次に「家」の手まねをしたまま、両手を
上へそらして、家の屋根を大きく見せる。

金儲け 「金」を表わしてから、次に、掌
を前向け指頭を上にした五指を彎曲させ
て、その手をぐっと手前へ引き寄せる。

靴 (イ) 左脇で靴を抱える真似(抱え靴)
(ロ) 右手で靴を掲げる真似(掲げ靴) (イ)

人差指と親指の二指の指頭を右肩につけ、そ
のまま胸から下へ斜めに降して肩にかけた靴
の紐を表わす(かけ靴)

株式 指頭を上にした人差指と中指の両
手を夫々頭の左右にして交互に前後に運動さ
せる。

釜 両手で右左夫々の耳の上をつまみ、上
へつり上げるようにする。

頭部全体を釜として、釜の縁(両耳)を持
ち上げる表現。

鎌 一束の草をつかんだように拳にして左
手の下で、右手の曲げた人差指(鎌)を左へ
弧を描いて手前へ引いて草を刈り取る身振
り。

かまわない 小指の指頭で、下口唇を二、
三度軽く叩たいて見せる。

神 人差指で上(天)をさす。「天にまし
ます神」である。

紙 「白」の手まねをして(人差指の指頭
で歯をさす)次に、両手の人差指で空間に口
形を描く(両手の人差指の指頭を合わせてか
ら左右に離し次にそのまま同時に平行に下
降させ、また両指を相寄らして指頭を合わ
す)

雷 「稲光」の手まねをしてから、いそい
で両手で左右の耳を塞ぐ